国語科　授業改善推進プラン

観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
国語への関心・意欲・態度	読書や音読発表会への意欲が高く、学習を楽しみにしている児童が多い。	読み聞かせを好み、物語教材に親しんでいる。漢字学習に対する意欲はある。	読書、読み聞かせ、言葉遊びなどには意欲的である。	読書や作文に対する意欲はあるが、文章力が低い。	読書を好む児童は多いが、読む、書く活動に対する意欲は個人差が大きい。	長文の読み取りや完成まで時間がかかる作文などに対して意欲が続かない。
話す･聞く能力	話す場や相手に応じて、声の大きさを調整すること、相手の話を集中して聞くことに課題がある。	話すことは好きであるが、順序だてて話すことに課題がある。話を集中して聞くことに課題がある児童が多い。	集団の前で話すことに慣れていない。また、聞く力も十分にあるとは言えない。基本の姿勢から声掛けをする必要がある。	考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことに課題がある。また、発表時の声もとても小さい。	話し手の意図を考えながら話の内容を聞きメモをとることについては目標値を下回った。	目標値と同程度である。立場をはっきりさせながら話し合うことに課題がある。
書く能力	ひらがなは定着してきたが、文章にするときの助詞の使い方に課題が残る。	学年相当の長さの文章を書くことはできる。順序に沿って簡単な構成を考えることや、正しい表記で書くことに課題がある。	書くことに対する意欲はあるが、書く能力には大きな差がある。始め・中・終わりの構成を意識して書けるようにはなってきている。	書くことには意欲的だが、内容によって差がある。資料をもとに適切な言葉を補って書く力が不十分である。	書くことに対する意欲は個人差が大きい。文章の量は意欲に左右される。段落を分けて書くことができない児童もいる。	目標値を大きく上回った。２段落構成、意見とその理由を区別して書くことができている。
読む能力	音読にしっかりと取り組むことで、内容理解も深まってきている。しかし、読み取った内容を、自分の言葉で表現することはまだ難しい。	楽しんで読んでいるが、読解力が不十分な児童が一定数いる。（漢字が苦手なため、読むことができない児童がいる。）	説明文も、物語文も、読み取る能力が低い。段落のつながりを考えて読むことに課題が残る。	説明文の要点に注意して読み取ることに課題がある。また、聞かれていることに対して、正対して答えることが難しい。	目標値は上回ったが、説明文の読み取りの力が不十分である。	物語文の目標値はやや下回っている。説明文を読み取る力が弱く、文章の内容を的確に押さえることができない。
言語についての知識･理解・技能	長音、拗音、促音、撥音を読むことはできるが、書くことに課題が残る。	既習漢字が定着していない児童がいる。 助詞の使い方に課題がある。	既習漢字が定着しない。語彙力が少ない。助詞の使い方に課題がある児童が多い。	既習漢字の定着に個人差がある。ローマ字の読み書きが定着していない。語彙力が少ない。	目標値を少し下回った。主述の関係や修飾語の理解が不十分である。	文の構成（述語・修飾語）が弱い。漢字の読み書きは、個人差が大きい。

課題と授業の改善策

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
課題	○声の大きさを調整し、全体の場でも大きな声で話せる力を身に付ける。 ○ひらがなを使った文章を書くこと、また、長音、拗音、促音、撥音を落とさずに書く力を伸ばす。 ○助詞「は」「を」「へ」の使い方を身に付ける。	○漢字や語句の定着を図る必要がある。 ○話を集中して聞くことに課題がある児童が多い。 ○順序に沿って、正しい表記で文章を書く力を身に付ける。 ○文章中の大事な言葉に気を付けて正しく読み取る力を高める。	○場に応じた話し方、正確に聞き取る力を身に付ける。 ○学年相当の文章校正力を身に付ける。 ○段落ごとの内容を踏まえながら読む力を付ける。 ○学年相当の語彙と、漢字を書く力を身に付ける。	○資料がある文章から大事な部分を読み取る力をつける。 ○条件に合った作文を書くことに課題がある。 ○説明文を読み取る力が全体的に低い	○漢字の書き取りや主述の関係、修飾語についての理解を定着させる必要がある。 ○文章全体の構成を考えて書くことに課題がある。	○説明文の内容を理解する力をつける。 ○漢字を書く力の向上。 ○語彙力を向上。
授業の改善策	○声のものさしを活用し、活動内容に合わせて声の大きさを調整させる。 ○授業の中で、誤答例を取り上げ訂正させるなどして、正しい書き方を意識させる。 ○ＭＩＭを活用し、拍を意識させることで長音、拗音、促音、撥音を理解させる。	○漢字練習を継続的に行い、小テストは満点を目標とさせる。 ○「聞き方名人・話し方名人」を活用し、聞く態度、話す態度を意識させる。 ○効果的なプリント問題を定期的に行い、習熟を図る。 ○教科書以外の物語文や説明文を広く読ませて、読解力の向上を図る。	○朝のスピーチなどを活用し、話す・聞くの指導を強化する。 ○漢字テストをこまめに行う。国語辞典を使う。 ○作文をする機会を増やす。 ○構成を意識させる指導。	○資料型の問題に多く取り組む。また、それをもとにして自分の考えを書く力をつける。 ○説明文の内容と添付資料との関連性を意識させて、読み取りをさせる。	○文の構成を含む、言葉の学習に関する既習事項を繰り返し復習する。 ○漢字の小テスト、再テストで既習漢字の復習を繰り返し行う。 ○目的や意図に応じて必要な情報を集め、自分の考えが伝わるように書くことに重点を置いて指導をする。	○指示語や接続語のはたらきを理解し、文章理解につなげる。 ○語彙力を高める。 ○漢字テストなどを活用した復習、辞書を活用する時間の確保。

社会科　授業改善推進プラン

観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	３年	４年	５年	６年
社会的事象への 関心・意欲・態度	全体的に意欲をもって取り組む姿が見られる。特に調査活動に対して意欲的で、学区域の探検や、社会科見学では、よく調べ、記録することができた。	全体的に社会的事象への関心が低い。特に、工場の仕事の様子についての正答率が低い。	児童は社会的事象に関心をもって学習に取り組んでいる。学習効果測定の結果は、目標値を上回った。	歴史に関しては意欲的で、自ら調べる児童も多くいる。その一方で、覚える知識が多く、苦手意識をもつ児童もいる。暗記ではなく、時代の流れにより起こった出来事や戦いなど理由と関連付けられるようにする必要がある。
社会的な 思考・判断・表現	実際に見てきたことなどの事実は捉えることができるが、特徴や傾向をつかむことは難しい。	社会的事象から学習問題を見出すことがあまりできていない。働く人々の工夫について考察する項目の正答率が低くなっている。	目標値を上回った。資料を基に考察し、回答する問題や、記述して解答する問題の正答率が低かった。	複数の資料を関連付けて考察したり、読み取った内容を記述で表現したりする力が弱い。
観察・資料活用の 技能	調べてきたことをもとに、地図記号を使って平面地図に直すことができた。地図の読み取りなどは繰り返し地図に触れさせ、慣れさせる必要がある。	地図や各種の資料を活用して解く問題の正答率が低かった。農家の様子や工場の仕事の様子についての資料の読み取りや、地図の情報と照合する問題の正答率が特に低かった。	目標値を上回った。資料やグラフなどを読み取る問題の正答率は、目標値と同程度にできていた。一方、地図を読み取る問題の正答率が低かった。	日本の工業地帯や工業生産に関する資料を読み取って答える問題や、日本の気候について該当する雨温図を選択する問題の正答率が低かった。
社会的事象についての知識・理解	大田区の様子について具体的なことを理解することができたが、場所によって違いがあることの理解が不十分である。	社会的事象に対しての具体的な理解が不十分な児童がいる。	目標値を上回った。都道府県の位置や名称は、目標値と同程度できていたが、学習内容の理解についての正答率が低かった。	日本の貿易相手国に関してのみ目標値を下回った。それ以外はどの領域でも目標値と同程度か上回っている。

課題と授業の改善策

	３年	４年	５年	６年
課題	○事象や資料から、傾向や特徴をつかむ力を身に付ける必要がある。 ○等高線や地図上の方位など、地図の見方についての基本を身に付ける必要がある。	○社会的事象に関する知識を定着させる必要がある。	○資料を正しく読み取り、そこからわかることや考察などを指摘したり記述したりする力をつける必要がある。 ○地図帳を活用する力をつける必要がある。	○必要な資料を選択して正しく読み取る。また、資料からわかることや考察などを指摘したり記述したりする力をつける必要がある。 ○基本的な知識を確実に定着させる。
授業の改善策	○事象や資料を読み取る時の着眼点を与える。 ○事象や資料を複数用意し、比較作業を多く取り入れた授業展開を計画する。 ○おさえるべき知識をフラッシュカードなどにまとめ、授業の導入や復習時に繰り返し行う。 ○地図上の方位や見方についての力を高めるため、地図遊びを適宜取り入れる。	○資料の読み取る力や活用する力をつける。また、地図に関する知識を身に付けさせる。 ○見学や調査から得た情報と学ばせなければいけない知識を教師がしっかり見極め、活動後にもれがある場合、全体でしっかりおさえる。 ○単元ごとにワークテストの他にドリルや問題を行い、知識の定着を図る。	○資料やグラフなどを丁寧に読み取るとともに、わかったことやその原因などを考え、文章で表現させるようにする。 ○社会科に限らず、日々の学習の中で地図帳を活用する。地名が出てきた際に、地図帳の索引検索を用いて調べるとともに、周辺の地形や様子なども合わせて読み取りをし、地図に慣れ親しむようにする。	○地図、分布図など様々な種類の資料の見方を復習する。 ○教科書の「ことば」に出てくる言葉の意味を押さえ、確実な知識として定着させる。 ○授業だけでなく、知識の定着を図るためにも復習プリントなどを行う。

算数科　授業改善推進プラン

観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
算数への関心・意欲・態度	学習したことを日常生活でも使っている様子が見られる。	計算問題などは意欲的に取り組んでいる。文章題や少し難易度が高く、複雑な問題になると意欲が低下する。	意欲的に学習に取り組んでいる。大きい数の計算や文章問題は、苦手意識をもっている児童が多い。	計算問題等に進んで取り組む児童が多い。一方で、難しいと感じるとすぐに諦めてしまう傾向が強い。	計算問題に進んで取り組む児童が多い。文章問題など、難しいと諦めてしまう姿が見られる。	公式を覚え、計算しようとする意欲はあるものの、公式を導き出すことに関しては、意欲が低い。
数学的な思考・表現	問題文から演算決定をすることに課題がある。また、立式し、問いに正対した答えを出すことが課題である。	基礎的な問題では、文章を読んで立式をすることができる。しかし、問題場面を図に表すことが難しい児童が多い。	文章問題の演算決定や立式ができない児童が多い。適切な単位の選択ができない児童がいる。	文章問題の立式や、あまりのあるわり算の筆算に課題がある。問題文を正しく読み取れていないことが多い。	文章問題で、演算決定、立式、答えの見当をつけることが難しい。	百分率の理解が低く、正答率が２５％。基準量や比較量を求める際のもとになる数が分かっていない。
数量や図形についての処理	ブロック操作に親しみ、具体物を使って正確に答えを出すことができる。	「１５－８」など１年生で学習した２位数―１位数の計算に時間がかかる児童が若干名いる。長さを測ったり線を引いたりするのが苦手な児童がいる。	基本的な計算の仕方は身に付いているが、素早く正確に計算することが難しい児童が多い。	基本的な計算の仕方は身に付きつつあるが、桁の大きなかけ算に課題がある。また、０を含む乗法を適用することができない児童が多い。	定規やコンパス、分度器を用いて、正確に図形を描いたり、角度を測ったりすることができない児童が多い。	分数の計算が弱い。（特に通分、約分、分数の大きさの比較。）
数量や図形についての知識・理解	計算はできるが、問題文に合った単位をつけることに課題がある。	量と測定の学習では、量感がまだ身に付いていない。単位換算が苦手な児童が多い。	数量や計算について理解できている。わり算の意味の理解が不十分である。	命数法（漢数字）で表された数字を記数法（算用数字）に直すことが苦手である。棒グラフや表の有用性が理解できていない児童がいる。	小数の相対的な大きさの理解が不十分である。また、大きな数を１０倍（1/10）すると位が上がる（下がる）ことの理解が不十分である。	倍数や最大公約数を求めることができない。円周、合同な図形、体積は目標値と同程度である。

課題と授業の改善策

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
課題	○問題場面から正しく立式することが苦手である。 ○単位をつけるなど、問題に正対した答えを出すことが苦手である。 ○求残は得意だが、求差の問題からひき算を立式することが苦手である。	○文章問題から正しく立式する力が必要である。 ○計算を早く正確にできるようにする必要がある。 ○簡単な単位換算ができるようにする必要がある。	○文章問題の題意をとらえる力をつける必要がある。 ○計算力を伸ばす必要がある。 ○平易な単位換算や、適切な単位選択ができるようにする必要がある。	○文章問題を正しく読み取ることが苦手である。 ○0 を含むかけ算や、あまりのあるわり算を正確に計算できるなど、計算力を伸ばす必要がある。	○文章問題の演算決定、立式が苦手である。 ○余りのあるわり算のやり方、概数の表し方が定着させる必要がある。	○文章を読み取り、立式する力をつけることが必要である。 ○分数の四則計算する力を高める必要がある。
授業の改善策	○具体物を操作させる場面を多くし、問題場面の理解を深めさせる。 ○計算カードを繰り返し練習させ、基本的な加法、減法の計算力を向上させる。	○問題場面を簡単に図に表す方法を考えさせる。 ○フラッシュカードや計算プリントの習熟をステップアップタイム等で行う。 ○具体物を操作させながら、量感を身に付けさせる。	○テープ図などをもとにして演算決定させる。 ○徐々に計算の桁数を増やすなど、週２回段階的な計算プリントに取り組む活動を取り入れる。 ○ノートに単位の一覧ページを作り、既習単位を追記したり、復習に使用したりする。	○計算問題の後には、かけ算やわり算のけたを増やした活用問題に取り組む時間を設ける。 ○ベーシックドリルを反復練習し、命数法や表、グラフの問題に慣れさせる。	○朝学習、レディネステストに取り組む際、わり算や概数の復習を継続して行う。補習でも取り入れる。 ○文章問題に取り組む際、①数直線に表す②簡単な数字に置き換えて考える③答えの見当をつけて考えることができるようにする。	○文章問題を数直線で表し、立式の根拠とする。数直線の書き方を指導し、書けるようにする。 ○類似する練習問題に繰り返し取り組ませる。
	○問題文で分かっていること、問われていること、答えの単位に印をつけさせることで、問題場面を把握して立式する力を養う。 ○必要に応じて、数値を簡単にしたり図に表したりする活動を取り入れ、問題場面を正確に捉える力を養う。					

	○筆算を行う際は、①ノートのマス目に合わせて書く。②繰り上がりなどの印を書く。③定規を使って見やすく書く。など見やすく書くことにより正確に計算する力を養う。

理科　授業改善推進プラン

観点ごとの児童の実態・学習効果測定結果の分析

	３年	４年	５年	６年
自然事象への 関心・意欲・態度	観察や実験などに興味をもち、積極的に学習に取り組む姿が見られる。しかし、昆虫の学習に関しては、個人の好き嫌いが影響しているところもあり、消極的な児童もいる。	実験に関心をもって取り組むことができている。自然観察や自然現象への関心が高いが、方法に差ができている。	理科が好きだという児童が多く、実験や観察に積極的に取り組むことができる。しかし、既習事項を忘れてしまっている児童が多い。	友達と協力しながら実験をすすめるなど、理科学習に意欲的な姿が多く見られる。植物の学習では、関心が低くなっている。
科学的な思考・表現	根拠のある予想を立てることが難しい。結果と考察の区別がまだついていない。	比較・条件・関連づけなどをして調べることや、結果から考察することが苦手な児童が多い。	星の動きを推測したり、物のあたたまり方や物の体積と温度を理解して、根拠をもって表現したりすることが難しい。	様々なことと関連させて考える「推論」が難しい実態がある。「植物の発芽と成長」では、対照実験の意味や目的が分からない児童が多かった。
観察・実験の技能	実験器具の扱い方に関しては、丁寧に正しく使用できる児童が多い。観察や実験の視点を理解し、定着している。	実験を計画的に実施し，器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うことや、それらの過程や結果を的確に記録することが課題となっている。	実験器具の名前や正しい使い方を理解して扱うこと、実験結果を表やグラフに効果的に表したり、結果から考察したり推測したりすることが難しい。	薬品を安全に使用したり、実験器具を上手に使いこなせたりするようになってきた。顕微鏡の使い方は概ね理解できている。
自然事象についての 知識・理解	生活経験から得た知識はあるが、うまく活用ができていない。	物理における規則性、相互の関係などについて実感を伴った理解ができていない児童が多い。	１年間の昆虫や動物の様子、動物の体のつくりと運動に興味をもっているが、知識の定着が不十分である。	実験を伴わない「人のたんじょう」などの単元において、知識・理解が不十分であった。

課題と授業の改善策

	３年	４年	５年	６年
課題	○実験結果から考察や結論を導き出す思考力を高める必要がある。 ○実験器具などに関する基本的な技能を身に付ける必要がある。 ○各単元のおさえるべき知識、身に付けるべき技能の定着させる必要がある。	○自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて実感を伴った理解をしていない。	○実験結果をもとに、自分の言葉でしっかりと考察することが難しい。 ○自然事象について興味はあるが理解が不十分であり、既習事項が定着していない。	○５年生で身に付けるべき「条件制御」に関しての正答率が低い。 ○理科室で実験をよく行う単元に関しては、定着している内容が多いが、観察のみや、実験が少ない単元に関しては定着率が低い。
授業の改善策	○事象提示→問題→予想→観察・実験→結果→考察→結論の流れを意識した授業展開を行う。 ○実験や観察を必ず取り入れた学習展開を計画する。実験器具の使用法を確実に身に付けられるよう、新出の道具に関しては、技能テストを行い定着状況を確認する。 ○既習事項について 10 分確認テストなどを活用し、復習する時間をとる。	○実験から、性質、規則性、相互関係を理解させたい。そのために、予想⇒実験⇒結果⇒考察の流れを大切にして学習を進め、ドリルなどで知識の定着を確認する。 ○観察などでは、的確な記録の方法を習慣化させて、教師が確認をとる。さらに一般的な事象と比較させ、自然事象の規則性を定着させる。	○実験では、調べたいこと以外の条件をそろえることに注意させながら予想⇒実験⇒結果⇒考察の流れを大事にする。考察はそれぞれの言葉でまとめてから全体で確認する。 ○単元に関連する全学年までの既習事項を復習したり、前時を復習したりする時間を大切にし、知識を定着させていく。	○人のたんじょうや川の水の流れなどの実際授業内で体験できないものに関しては、映像を効果的に用いたり、繰り返しプリント学習などを行ったりする。 ○事あるごとに条件を意識させていくことで条件制御の仕方を身に付けさせていく。 ○１０分テストの活用。映像資料の活用をさらに行っていく。

生活科　授業改善推進プラン

児童の実態

１年	２年
○学校生活が始まり、学校の中や人、生き物について興味をもち、すすんで学習に取り組んでいる。 ○栽培に意欲的に取り組み、自分のあさがおの成長を実感しながら栽培している。 ○観察カードに記録する際、見た通りに絵を描いたり、気付いたことを書いたりすることに課題がある。	○探検、栽培、飼育などの体験的活動に意欲的な児童が多い。 ○２年生になってからザリガニを飼育しているが、まだ、経験不足と感じる。 ○気付いたことや感じたことについて、観察カードに絵や文章で表現する方法を理解している。 ○身近な対象と自分とのかかわりに関心をもち、気付いたこと、見つけたことを積極的に報告する児童が一定数いる。

課題と授業の改善策

	１年	２年
課題	○観察カードに記録する際、見た通りに絵を描いたり、気付いたことを書いたりすることに課題がある。	○栽培や探検など体験的な活動が好きであるが、より主体的に取り組めるような工夫が必要である。 ○観察カードに意欲的に記入できる児童がいる一方、観点を与えないと書けない児童もいる。 ○気付いたことや感じたことについて、絵や文章でより具体的に表現する力を育てていく必要がある。 ○校外での活動の経験が少ない。
授業の改善策	○観察の前に、重点的に観察するポイントを事前に指導する。 ○「見る、触る、嗅ぐ」など、様々な感覚を使って観察させることや、「大きさ、高さ、太さ、色、形、触感、数」など観察の観点を具体的に示すことで、気付きが生まれるように促す。また、全体で気付きを共有していく。	○自分たちの生活や地域にあるものを題材にすることで活動への意欲を高め、主体性を引き出す。児童の気付きや問題意識についてみんなで共有して話し合ったり、解決策を見つけたりする場を設ける。 ○数少ない校外学習で、児童の学びがより深くなるように、事前指導をしっかりと行い、児童の問題意識を高める。 ○体験活動での気付きを表現し、カードなどにまとめたり、友達同士読み合ったりする。そこで見つけたよりよい方法を全体で共有し、次の活動につなげていく。

音楽科　授業改善推進プラン

観点ごとの児童の実態

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
音楽への 関心・意欲・態度	楽しみながら意欲的に取り組んでいる。歌ったり、リズム打ちをしたりしている。	楽しみながら意欲的に取り組んでいる。新しい曲や音楽朝会を楽しみにしている。	楽しみながら意欲的に取り組んでいる。学習のルールも少しずつ身に付いてきた。	楽しみながら意欲的に取り組んでいる。今後はより主体的に活動できるようにする。	新しい題材や様々な活動に積極的に取り組んでいる。規律や集中力が身に付いてきている。	新しい題材や様々な活動に積極的に取り組んでいる。全体として、音楽に前向きな児童が多い。
音楽表現の 創意工夫	音楽に合わせ体を動かしたり、拍の流れを感じとりリズム打ちを楽しんだりすることができる。	曲に合わせて２，３拍子のリズム打ちができた。曲に合った歌い方に課題のある児童がいる。	曲にふさわしい歌い方や演奏の仕方を考えて表現することができるようにする。	曲想に応じた歌い方の工夫や、友達の音と合わせて演奏することができる。	歌詞の内容や曲の特徴を感じ取り、気持ちを込めて表現することができる。	歌詞の内容や曲の特徴を感じ取り、思いや意図をもって表現することができる。
音楽表現の 技能	声を合わせて元気な声で歌うことができる。	正しい音程で歌えている。鍵盤ハーモニカのタンギング、運指に課題のある児童がいる。	歌唱では、自然な発声でのびのびと歌えている。リコーダーの運指も定着している。	声を揃えて丁寧に歌うことや、拍に乗りながら合奏をすることができる。	音の響きや重なりを意識した合唱や合奏ができるようになっている。	響きのある歌声や、パートの役割を意識した合奏ができる。
鑑賞の 能力	曲の気分を感じとって、体をゆらしたりしながら聴いている。	曲の気分を感じとって、曲想を味わいながら楽しく聞いている。	曲の情景を想像し、曲想を味わいながら楽しく聴いている。	楽曲の構成に気をつけて、曲想を味わいながら楽しく聴いている。	楽曲の構成や変化に気をつけて、音楽的根拠をもって聴いている児童が多い。	楽曲の構成や変化に気をつけて、音楽的根拠をもって聴いている児童が多い。

課題と授業の改善策

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
課題	○友達と楽しく活動できない児童がいる。 ○声の出し方が分からない児童がいる。 ○鍵盤ハーモニカは運指、タンギングができるようにする。	○友だちとかかわって楽しく活動できない児童がいる。 ○曲に合った発声で声を合わせて歌うようにする。 ○鍵盤ハーモニカは運指、タンギングができるようにする。	○歌唱では、呼吸や発声などの基礎力を伸ばし、声を揃えて歌えるようにする。 ○リコーダーの指づかいを定着させ、曲のレパートリーを増やす。友達の演奏もしっかり聴けるようにする。	○歌詞や曲想に合った歌唱表現および簡単な二部合唱ができる力をつける。 ○１学期の合奏で学んだことを生かし、責任を持って練習し、気持ちを合わせて合奏ができるようにする。	○声質や音程感覚の良さはそのままに、自信を持って歌える教材の選択・指導法の工夫をする。 ○興味・関心に応じた楽器の選択をさせ、高学年として、規模の大きな合奏に挑戦する。	○高度な合唱や合奏に挑戦し、最高学年としての迫力をもった演奏を目指す。 ○思いや意図を持った表現の能力を伸ばすために、音楽用語や楽曲の背景についての理解を深める。
授業の改善策	○身体表現を入れて楽しみながら活動できるようにする ○息を吸うタイミングを教え、声を出せるようにする。 ○鍵盤ハーモニカは、運指やタンギングが正確にできるようにする。	○楽しく活動するためのルールを定着させる。 ○歌詞の意味を考えて歌い方、声の出し方を工夫する。 ○鍵盤ハーモニカは階名唱をして練習し、タンギングは個別に指導し身に付けさせる。	○呼吸・姿勢に重点を置いて指導し、グループ唱や振り返りの時間を設ける。 ○リコーダーの個別指導や発表の機会を多く設け、楽しみながら基本的な奏法を身に付けさせる。	○明るく響きのある歌声を目指し、曲に合った表現ができるようにする。 ○音を聴き合うことや響きを合わせることを重視した活動を通して、合奏の能力を伸ばす。	○歌唱では、発達段階に応じた声の出し方を工夫し、二部合唱のポイントも基礎から丁寧に指導する。 ○器楽では、特別楽器の音色や曲想を生かして合奏できるようにする。	○歌唱では、表現の工夫に関する発問を沢山行い、パート練習も自主的に行えるようにする。 ○楽器の特徴や曲の構成を理解しながら豊かな音の響きで合奏できるようにする。

図画工作科　授業改善推進プラン

観点ごとの児童の実態

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
造形への関心・意欲・態度	児童は意欲的に、絵や工作に取り組んでいる。	児童は意欲的に、絵や工作に取り組んでいる。	絵や工作に表す活動に意欲的に取り組み、楽しんで活動している。	絵や工作に表す活動に意欲的に取り組み、楽しんで活動している。	意欲的に活動に取り組み、楽しんで表現している。集中力が長く続かない児童もいる。	意欲的に活動に取り組む児童が多く活発に活動しているが、中には苦手意識がありなかなか活動しようとしない児童もいる。
発想や構想の能力	自分の発想で思いのままに取り組んでいる児童が多い。	自分の発想で思いのままに取り組む児童が多い。	感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形や色を思いついて活動できている。	感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形、色を思いついて活動できている。	感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形や色を思いついて活動している児童が多いが、自由度の高い題材だと手が止まってしまう児童もいる。	感じたことや材料を基に、自分なりに表したいことや、形や色を思いついて活動している児童も多いが、表したいことを明確にもてない児童もいる。
創造的な技能	入学前までの経験に差があるため、はさみの操作や人間を描くといった作業にも差が出ている。	絵の具を正しく使えない児童や、材料から想像をふくらませることができない児童がいる。	表したいことに合わせて、材料や用具を使ったり、表し方を工夫したりしている児童も多い。	表したいことに合わせて、材料や用具を使い、表し方を工夫している児童が多い。	感覚や経験を基に、表したいことに合わせて材料や用具を使えている児童もいるが、適切に材料や用具を扱えない児童もいる。	感覚や経験を基に、表したいことに合わせて材料や用具を使えている児童が多いが、既習事項が身についていない児童もいる。表したいことに合わせた工夫や見通しをもった活動ができるとよい。
鑑賞の能力	友達の作品などを鑑賞し、よいところを発見することができている。	友達の作品などからを鑑賞し、よいところを発見することができている。	身近にある作品から、積極的によさを感じ取ったり、良さを発表したりできる児童が多いが、鑑賞ノートを書けないで終わってしまう児童もいる。	身近にある作品から、積極的によさを感じ取ったり、発表したりできる児童が多いが、鑑賞ノートを書こうとしない児童もいる。	親しみのある作品などから、よさや美しさを感じ取っている。作品の意図や特徴を感じ取れるようになるとよい。	親しみのある作品を積極的に鑑賞し、よさ、美しさを感じ取っている児童が多い。作品の特徴や作者の意図などを感じ取れるようにしたい。

課題と授業の改善策

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
課題	○人間を描くときや物を描くときに足りないパーツがないように描けるようにする。 ○基本的な用具の使い方を身に付ける必要がある。	○絵の具で色を塗るときに、自分がイメージした絵を思い浮かべて、自分で考えた色塗りができるようにする。 ○基本的な用具の使い方を身に付ける必要がある。	○新しい道具を使う場面が多いため、正しく道具を使えない児童もいる。 ○鑑賞ノートを書けないで終わってしまう児童もいる。	○長い時間になると集中力が続かない児童や、題材の意図に合わない活動をしてしまう児童もいる。 ○材料や道具の使い方がまだ定着しきっていない児童もいる。	○表したいことが思いつかなかったり、なかなか活動できなかったりする児童もいる。 ○長い時間集中力が続かなかったり、細部までこだわってつくれなかったりする児童もいる。	○絵に表す活動などに苦手意識があり、活動に意欲的に取り組めない児童もいる。 ○材料や用具の適切な使い方がまだ身についていない児童もおり、表したいことに合わせた表現につながらない児童もいる。
授業の改善策	○初めて描くときにはどんなパーツから成り立つものなのかを全員で確認してから描くように指導する。 ○はさみの使い方や色塗りの仕方などの指導を徹底して行う。 ○作業をするときの机上整理など、基本的なことを養わせる。	○児童が達成感を味わえるように、取り組みやすい題材を設定する。 ○絵の具の色を変えて色塗りを楽しませ、思い描いたイメージに近付く色づくりができるように指導する。 ○出来上がった作品を、友達が分かるように紹介し合い、鑑賞活動ができるようにする。	○どの児童にも取り組みやすい題材を設定し、意欲的に取り組めるようにする。 ○道具の正しい扱い方や準備、片付けの仕方などの指導を徹底し、安全に正しく道具が扱えるように指導する。 ○作品づくりや鑑賞のポイントをおさえたり、スモールステップで進度を合わせて活動したりするようにする。	○どの児童も取り組みやすいような題材を設定する。集中力が続かない児童も活動に向き合えるように、クロッキーを取り入れるなど、スモールステップを意識する。 ○材料や用具の使い方を確認し、正しく安全に活動できるようにする。	○作品づくりの前に、アイデアスケッチやイメージを広げる時間を設定し、自分のイメージを作品に表せるようにする。 ○クロッキーの時間を設けたり、児童ができるだけ同じ進度で活動したりできるように、スモールステップでの活動を意識して行う。	○苦手な児童も活動に取り組みやすい題材を設定し、スモールステップで丁寧に指導する。 ○材料や用具の使い方、作品の進め方を確認し、正しく安全に活動できるように指導し、表したいことに合わせた表現ができるように声かけしていくようにする。

家庭科　授業改善推進プラン

観点ごとの児童の実態

	５年	６年
家庭生活への関心･意欲・態度	衣食住の学習について興味・関心をもって活動に参加し、進んで実践しようとしている児童が多くみられる。また、楽しく活動ができている。	衣食住の学習について興味・関心をもって活動に参加し、進んで実践しようとしている児童が多くみられる。家での仕事も積極的に行っている児童がいる。
生活を創意工夫する能力	自分の生活を見直し、課題を見つけ、家庭での役割に気づいて工夫しようとしている児童が多くみられる。	自分の生活を見直し、課題を見つけ、家庭での役割に気づいて工夫しようとしている児童が多くみられる。
生活の技能	衣食住などの生活に関する基礎的な技能を身に付けている児童は多いが、課題のある児童もいる。	衣食住などの生活に関する基礎的な技能を身に付けている児童が多い。しっかりと身に付け、お手本となって活動する児童もいる。
家庭生活についての知識・理解	家庭生活に関する基礎的な知識を身に付け、理解している児童が多いが、課題のある児童も数名いる。	家庭生活に関する基礎的な知識を身に付け、理解している児童が多いが、課題のある児童も数名いる。

課題と授業の改善策

	５年	６年
課題	○調理や裁縫に対する意欲・興味・関心に個人差がある。 ○家庭科全般に意欲的に取り組む児童、調理に関しては意欲的だが裁縫に関しては意欲がもてない児童、全般に苦手意識を感じている児童など、興味や経験によって様々である。どの児童にも意欲をもたせられる工夫をし、「できた」という達成感をもたせたい。 ○学習したことを、日常の家庭生活の中で活用させたい。	○調理や裁縫に対する意欲・興味・関心に個人差がある。 ○家庭科全般に意欲的に取り組む児童、調理に関しては意欲的だが裁縫に関しては意欲がもてない児童、全般に苦手意識を感じている児童など、興味や経験によって様々である。どの児童も意欲がもてるように工夫をし、「できた」という達成感をもたせたい。 ○学習したことを日常の家庭生活の中で活用し、生活上の課題を解決したり、応用したりする力をつけていく必要がある。
授業の改善策	○興味・関心を伸ばしていくために、題材の構成や内容を見直し、学習指導の工夫を重ねる。確かな技能を定着させるために、グループによる教え合いの活動を増やしていく。 ○見通しやプロセスが児童に分かりやすいように工夫し、資料、見本、補助教材を充実させる。ＩＣＴ機器を活用する。ミシンの操作の学習においては、保護者による補助をお願いする。 ○学習内容を生活の状況や場面と関連づけ、実態に応じた教材や基礎的技能を取り入れていく。 ○習得したことを家庭生活に生かせるように、振り返りながら学習させる。単元によっては家庭での課題に取り組ませ、どの児童にも家庭生活においての実践を経験させる。	○興味・関心を伸ばしていくために、題材の構成や内容を見直し、学習指導の工夫を重ねる。 ○確かな技能を定着させるために、グループによる教え合いの活動を増やしていく。 ○見通しやプロセスが児童に分かりやすいように工夫し、資料、見本、補助教材を充実させる。ＩＣＴ機器を活用する。 ○学習内容を生活の状況や場面と関連づけ、実態に応じた教材を工夫する。５年生で学習した基礎的技能を活用して、応用した調理や裁縫ができるように指導の工夫を重ねていく。 ○習得したことを家庭生活に生かせるように、振り返りながら学習させる。長期休業中に課題に取り組ませ、どの児童にも家庭生活においての実践を経験・継続させる。

体育科　授業改善推進プラン

児童の実態

１年	２年	３年	４年	５年	６年
運動を好む児童が多く、体育の学習を楽しみにしている。運動経験には差があり、体の動かし方が分からないという子もいる。体力面にも大きな差があるため、児童の差を考慮した教材が必要である。	鬼ごっこなど体全体を使う遊びを好み、友達と仲良く体を動かすことができる。ボール・縄跳びを使う遊びなどは、技能の差が大きい。また、ボールゲームでは友達を意識した動きが苦手な児童が多く見られる。	鬼ごっこやボール遊びなどを好み、意欲的に活動する児童が多い。器械運動では技能に差があるものの、児童同士で教え合う姿が頻繁に見られる。整列や集団行動は、素早く行うことができる。	運動に対する意欲は高く、休み時間にも外で遊ぶ児童が多い。体力面・技能面には大きな差があり、それぞれに合った課題や教材の工夫が必要である。また、整列・集合が遅く、一つ一つの活動を行うのに時間がかかる。	運動が好きな児童とそうでない児童が分かれている。休み時間も校庭に出る児童は決まっている。体力や技能の差が大きいので、チームで力を合わせ一つの目標に向かわせるための工夫が必要である。場の設定に時間がかかる。	体を動かすことが好きな児童と、読書など静かに過ごす児童に分かれる。そのため、体力面・技能面に差がある。陸上運動や器械運動など自己の体力に応じて行う運動に対して、グループの運動では、体力面・技能面で差が出てしまう。

課題と授業の改善策

	１年	２年	３年	４年	５年	６年
課題	○運動経験の差が大きく、体力面や技能面での違いが顕著である。 ○筋力に課題のある児童が多い。	○器械運動の技能に個人差が大きい。 ○ボール投げを苦手としている児童が多く、投力を高める指導を進めていく。	○運動経験に大きな差がある。投力、器械運動にかかわる技能を伸ばせるように指導を行う。	○技能の低い児童の運動意欲を高める工夫をしていく。	○運動に対する意欲、体力・技能の差が大きい。 ○場の設定が早くできるように指導する。	○投力・瞬発力を高める指導を行う必要がある。 ○運動に対する意欲、体力面・技能面の個人差が大きくなってきている。
授業の改善策	○基礎体力向上のため、年間を通して授業の始めなどに体力を高める補助運動を行う。 ○様々な運動経験が身に付くように、１単位時間の中で様々な種類の運動に取り組むようにする。 ○固定遊具の利用を促し、物につかまったり、体を支えたりする運動経験を積ませる。	○授業内で多様な練習の場を用意する。児童が自分のやりたいこと、できるようになりたいことを支援する場を設ける。 ○ボール投げでは、遠くに投げることを苦手としているので、授業の中でソフトボール投げを取り入れるなど、練習時間を増やす。	○授業内の指示の内容や、タイミングを工夫して、運動時間を確保する。 ○体の使い方や動きの意味を理解させる。 ○準備運動にサーキットトレーニング的な要素を入れ、不足している力を高める時間を設定する。	○基礎体力を高める運動を学習の始めに行うようにする。 ○児童が自分のレベルに合った課題をもてるように、発問の工夫をしたり、教材に幅をもたせたり、技能ポイントを示したりする。 ○教材の魅力を児童に伝え、学習規律を守ることでより楽しく活動が出来る経験を積ませる。	○運動に対する関心が低い児童も楽しく取り組めるような簡単な運動を、授業の導入で行ったり、休み時間に取り入れたりする。 ○ペアやトリオでの教え合いを取り入れ、人の動きから技能向上の良い動きを学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ○オリエンテーションを単元の初めに行い、流れや準備、片付けの仕方を学ばせる。	○投力・瞬発力を高める運動を単元の初めに行うようにする。 ○グループの運動では、自己や仲間の考えたことを伝え合う場を作る。助け合い、協力して運動に取り組ませる。 ○自己の能力に応じて巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を取り入れる。